

愛知登文会ニュース 第37号

令和6年4月27日発行

1 事業実施報告「登録文化財保存活用シンポジウム」(2023度)

全3回のシンポジウムを会場とZoom併用で開催しました。

第1回 「文化財建造物の継承」

文化財所有者の課題となっている文化財建造物の継承をテーマに、お二人から講演いただきました。後藤氏からは、登録抹消の現状や背景について解説いただくとともに、次世代への継承にむけてどうあるべきかについてお話しいただきました。木下氏からは、関わってこられた住宅遺産の継承の事例及び活動についてご紹介いただきました。

R5.10.12(木)	内容	参加者
14:30~ 17:00	①歴史的建造物・町並の継承—課題と展望 講師：後藤治氏(工学院大学 総合研究所 教授/文化庁「建築文化に関する検討会議」座長) ②「住宅遺産トラスト」の活動について 講師：木下壽子氏(一般社団法人 住宅遺産トラスト 理事) ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次(愛知登文会会長・愛知県立大学教授)	34名 (講師・事務局含む)



▲建物の継承事例を紹介する後藤氏



▲活動について説明する木下氏



▲意見交換の様子

第2回 「歴史的建造物の活用」

歴史的建造物の活用について観光の面からお二人に講演いただきました。碓田氏からは、英国の私所有の歴史的住宅を対象に、保全団体の活動や訪問事例から見た保全と公開・活用の特色を紹介いただきました。太田氏からは、観光の意義や現在増えているインバウンドを中心とした国の観光政策、全国の事例を取り上げながら解説いただきました。

R5.12.27(水)	内容	参加者
14:00~ 16:30	①英国における歴史的住宅の保全と公開・活用の事例 講師：碓田智子氏(大阪教育大学教育学部教授) ②インバウンド観光の意義と政策について 講師：太田吉信氏(国土交通省中部運輸局 観光部長) ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次(愛知登文会会長・愛知県立大学教授)	40名 (講師・事務局含む)



▲英国の事例について解説する碓田氏



▲インバウンド観光について解説する太田氏



▲意見交換の様子

第3回 「多様な主体との連携による文化財の活用」

文化財の活用に関し、その方策として多様な主体との連携をテーマにお二人から講演いただきました。佐々木氏からは、認知度向上や、観光利用および市民活動の活性化に向けた活動事例をご紹介いただきました。益尾氏からは、各地で進む多様な主体との連携による歴史的建造物の再生について、ご自身の取り組みとともに解説いただきました。

R6.2.15(木)	内容	参加者
14:00~ 16:30	①鶴舞公園における多様な主体との連携による公園の活用 講師：佐々木辰夫氏（鶴舞公園 所長） ②歴史的建造物の活用から都市を再生する 講師：益尾孝祐氏（愛知工業大学建築学科准教授） ③意見交換 コーディネーター：小栗宏次（愛知登文会会長・愛知県立大学教授）	31名 (講師・事務局含む)



▲鶴舞公園について解説する佐々木氏



▲取り組みについて解説する益尾氏



▲意見交換の様子

2 事業実施報告「登録有形文化財魅力紹介冊子」(2023度)

2018年度からの継続事業として、愛知県内の登録文化財を毎年テーマごとに取り上げて紹介する冊子「あいちのたてもの」を作成しました。

「あいちのたてもの まちのシンボル編」

登録有形文化財魅力紹介冊子の「まちのシンボル編」が完成いたしました。「ものづくり編」「すまい編」「まなびや編」「いのりば編」「明治村編」に引き続き、6冊目となります。和風のシンボル、洋風のシンボル、新しいシンボルの3つにカテゴリーを分けて、近世から近現代にかけて建てられた、公会堂などの公共施設、またホテルや銀行、灯台など、登録有形文化財10件と重要文化財など7件の建物を取り上げています。それらの建物のデザインの背景を紐解き、その変遷をたどる冊子となっておりますので、最初から最後まで楽しみながらご覧いただけたと思います。

また、「登録文化財で昼食を」では、建物と一緒に飲食を楽しめるスポットを2件ご紹介しています。

制作にあたっては、各所有者・関係者の皆さん、腕の良いカメラマンの方々にご協力いただき、文章は建築史家の村瀬さんに執筆いただきました。豪華な写真の数々や図解ページも必見です。

この冊子は会員の皆様に配布したほか、愛知、岐阜、三重、静岡、東京、大阪、京都の各図書館や愛知の中学校、高等学校に寄贈させていただいています。ぜひお手に取ってご覧ください。また、当会ホームページでも公開中です。



▲冊子の表紙・裏表紙



▲まちのシンボル編についての説明と和風のシンボルの図解

3 事業実施報告「オンライン登録文化財魅力体験シンポジウム」(2023 度)

愛知登文会では、コロナ禍であいちのたてもの博覧会のリアル開催ができなかった 2020 年にオンラインあいたて博と銘打って、登録有形文化財の魅力を紹介する動画を制作し、YouTube で公開しました。翌 2021 年度にもあいたて博とあわせて動画を制作・公開しました。

今年度より、あいちのたてもの博覧会とは切り離し、登録有形文化財の魅力を紹介する動画を制作し、その動画をオンラインシンポジウムで公開し、意見交換を行いました。

今回の動画も Youtube で公開していますので、下記の QR コードからぜひ動画をご覧ください。

開催概要	公開した動画・動画の QR コード
<p>日時：令和 6 年 1 月 31 日（水） 13:30~15:30</p> <p>参加者：29 名(案内人・事務局含む) (うちオンライン参加 12 名)</p>  <p>▲動画公開の様子</p>  <p>▲意見交換の様子</p>	<p>① 名古屋市公会堂（名古屋市）</p>  <p>昭和 5 年に昭和天皇御成婚記念事業として、名古屋市の鶴舞公園内に建築された重厚な外観を有する魅力的な建物です。</p>  <p>② 岡崎信用金庫資料館（岡崎市）</p>  <p>岡崎市の中心部、二十七曲りと呼ばれる東海道沿いに位置する鈴木禎次設計の赤レンガと御影石を組み合わせた魅力ある建物です。</p>  <p>③ 刈谷市郷土資料館（刈谷市）</p>  <p>かつての刈谷城内に位置する旧亀城小学校本館を活用した資料館で、三河地方で活躍した大中華設計の当時では珍しい鉄筋コンクリート造の建物です。</p> 
<p>日時：令和 6 年 3 月 5 日（火） 14:00~16:30</p> <p>参加者：40 名(案内人・事務局含む) (うちオンライン参加 21 名)</p>  <p>▲動画公開の様子</p>  <p>▲意見交換の様子</p>	<p>① 旧小守家住宅（犬山市）</p>  <p>城下町の景観に寄与する大型の町家で、2 階には 9 室を備え、階段は中央室の間仕切、敷居、鴨居を切断して収めるといふ、興味深い造りになっています。</p>  <p>② 中定商店（武豊町）</p>  <p>武豊で明治から続く老舗の醸造蔵です。13 棟の蔵が薈（いらか）を並べる風景は圧巻で、そのうち大五蔵、昭二蔵、昭三蔵の 3 つが登録文化財となっています。</p>  <p>④ 本光寺（岡崎市）</p>  <p>本堂は、近代における真宗寺院の代表的な建物です。山門は 2 階建てになっており、楼上には釈迦三尊像が安置されています。</p> 

4 事業実施報告「あいたてカード」(2023 度)

あいたてカード 8 枚追加&Ver.2,Ver.3 を作成!

「あいたてカード」は、令和元年にあいたて博に合わせて制作したトレーディングカードで、その年の公開対象 50 か所について、建物情報や見どころをそれぞれ 1 枚にまとめたものです。

令和3年に新たに7枚のカード(No.51~No.57)を追加し、今年は8枚のカード(No.58~No.65)を追加しました。また、一部の発行済みのカードについても、Ver.2,Ver.3 を作成しました。

このカードは、建物を見学された方で希望される方にお渡ししています。あいたて博ご参加の際や、通常公開されている建物についてはお立ち寄りの際に、思い出を持ち帰るつもりでぜひ1枚お持ち帰りください。

表面の図柄は愛知登文会ホームページでも公開しています。



5 県外視察報告—愛知登文会独自事業 (2023 年度)

Deep な大阪

川原田家住宅 川原田みどり

2024年1月18日、今年度の保存活用事例視察は現地集合解散、大阪メトロを使って歩いて回り、大阪登文会の寺西会長、青山事務局長、濱野さん、水谷さんに案内していただきました。愛知からの参加は事務局も含めて11名でした。

まずは北浜エリアから、船場は街全体が建築ミュージアム!! なるほど、納得です。

野田源次郎の個人宅だったスパニッシュ様式の青山ビルはとてもキュートで私も一部屋借りたいと思うアパートのようでした。ここで元祖オムライスの店北極星でランチタイム。薄焼き卵にデミグラスソース、美味しかったです。お味噌汁がついて、オムライスの横にガリがのってるのは大阪風でしょうか。

午後は、薬のまち道修町通りを歩いてからミステリーツアーへ。アテンドのお一人も初めてと言われた飛田遊郭(「鯛よし百番」見学)、西成へ。中々行けないdeepな大阪をちょっと緊張しながら歩いてきました。

最後は会長の寺西家住宅と寺西家阿倍野長屋。2階建ての4軒長屋と蔵はレストランに、ご自宅庭に造ったカフェは息子さんが経営。長屋のリノベーションはそれぞれ個性的でほぼ同じ間取りなのを感じさせません。次回はこちらで食事したいですね。

そして、再生物語は同じ文化財所有者として大変参考になるとともに羨ましい限りです。マンションへの建て替え計画があった中、文化財登録をきっかけに余計なお金をかけずに今あるものを生かし、新たな価値を生んで収益も生み、地域の人に愛される街の財産となっていました。私が印象に残ったのは会長の「負の遺産がプラスになった!」です。私達も文化財が一つでもプラスになるよう、これからも頑張っていこうと思える視察でした。ありがとうございました。



◀「鯛よし百番」の鳥居



◀寺西家阿倍野長屋の前で記念撮影

編集後記

2023年度はウィキペディア愛知登文会やサポーター育成、あいたて博実行委員会の立ち上げ、オンラインシンポジウムなど、新たな取組にチャレンジする1年となりました。新たな取組を実現できたのは、ひとえに皆さまのご協力のおかげです。ありがとうございます。

今年度も文化庁補助事業の採択を受けることができましたので、これまで以上に愛知登文会を盛り上げるべく、試行錯誤しながら活動していきたいと思っております。今後も一層のお力添えを、お願いいたします。

愛知登文会ニュース 第37号

発行日：令和6年4月27日

発行者：愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会
〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目6番15号
名古屋テレビ塔株式会社内

TEL 052-971-8546 FAX 052-961-0561

E-mail info@aichi-tobunkai.org

HP http://www.aichi-tobunkai.org

Facebook @aichi.tobunkai

Twitter @aichitobunkai

Instagram aichitobunkai



LINE
(自動応答)